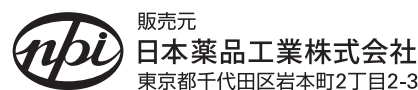


注意事項等情報改訂のお知らせ

2023年5月



長時間作用型ARB/持続性Ca拮抗薬配合剤

日本薬局方 イルベサルタン・アムロジピンベシル酸塩錠

劇薬
処方箋医薬品

イルアミクス® 配合錠 LD「ケミファ」
イルアミクス® 配合錠 HD「ケミファ」
ILUAMIX®

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は弊社製品につきまして格別のお引き立てを賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、このたび令和5年5月9日付 厚生労働省医薬・生活衛生局医薬安全対策課長通知及び自主改訂に基づき、標記製品の注意事項等情報の記載内容を改訂致しましたので、ご案内申し上げます。

製品のご使用に際しましては、下記の改訂内容をご参照くださいますようお願い申し上げます。

敬具

記

< 1. 改訂内容 (2023年5月改訂) > (該当部分のみ抜粋)

【1】「妊婦、産婦、授乳婦等への投与」の項の記載を一部改訂し、以下のように改めました。

下線部：追記箇所（薬生安通知）、下線部：追記箇所（自主改訂）、下線部：削除箇所

改訂後	改訂前
6. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与 (1) 妊婦又は妊娠している可能性のある女性には投与しないこと。また、投与中に妊娠が判明した場合には、直ちに投与を中止すること。 [妊娠中期及び末期にアンジオテンシンⅡ受容体拮抗剤又はアンジオテンシン変換酵素阻害剤を投与された患者で羊水過少症、胎児・新生児の死亡、新生児の低血圧、腎不全、高カリウム血症、頭蓋の形成不全及び羊水過少症によると推測される四肢の拘縮、頭蓋顔面の奇形、肺の低形成等があらわれたとの報告がある。アムロジピンは動物実験で妊娠末期に投与すると妊娠期間及び分娩時間が延長することが認められている。] (2) 妊娠する可能性のある女性に投与する場合には、<u>本剤の投与に先立ち、代替薬の有無等も考慮して本剤投与の必要性を慎重に検討し、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。また、投与が必要な場合には次の注意事項に留意すること。</u> 1) <u>本剤投与開始前に妊娠していないことを確認すること。本剤投与中も、妊娠していないことを定期的に確認すること。投与中に妊娠が判明した場合には、直ちに投与を中止すること。</u>	6. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与 (1) 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には投与しないこと。また、投与中に妊娠が判明した場合には、直ちに投与を中止すること。 [妊娠中期及び末期に他のアンジオテンシンⅡ受容体拮抗剤やアンジオテンシン変換酵素阻害剤を投与された高血圧症の患者で羊水過少症、胎児・新生児の死亡、新生児の低血圧、腎不全、高カリウム血症、頭蓋の形成不全及び羊水過少症によると推測される四肢の拘縮、頭蓋顔面の奇形、肺の發育不全等があらわれたとの報告がある。アムロジピンは動物実験で妊娠末期に投与すると妊娠期間及び分娩時間が延長することが認められている。]

◇次頁以降もご覧ください

下線____部：追記箇所（薬生安通知）、下線____部：追記箇所（自主改訂）、下線____部：削除箇所

改訂後	改訂前
(続き) 2) 次の事項について、本剤投与開始時に患者に説明すること。また、投与中も必要に応じ説明すること。 ・妊娠中に本剤を使用した場合、胎児・新生児に影響を及ぼすリスクがあること。 ・妊娠が判明した又は疑われる場合は、速やかに担当医に相談すること。 ・妊娠を計画する場合は、担当医に相談すること。 [妊娠していることが把握されずアンジオテンシン変換酵素阻害剤又はアンジオテンシンⅡ受容体拮抗剤を使用し、胎児・新生児への影響（腎不全、頭蓋・肺・腎の形成不全、死亡等）が認められた例が報告されている^{1,2)}。] (3) 授乳中の女性への投与を避け、やむを得ず投与する場合には授乳を中止させること。 [イルベサルタンでは動物実験（ラット）において乳汁中への移行が認められている。また、動物実験（ラット出生前及び出生後の発生並びに母体の機能に関する試験）の50mg/kg/日以上で哺育期間において出生児の体重増加抑制が認められている。アムロジピンではヒト母乳中へ移行することが報告されている³⁾。]	(続き) (2) 授乳中の婦人への投与を避け、やむを得ず投与する場合には授乳を中止させること。 [イルベサルタンでは動物実験（ラット）において乳汁中への移行が認められている。また、動物実験（ラット出生前及び出生後の発生並びに母体の機能に関する試験）の50mg/kg/日以上で哺育期間において出生児の体重増加抑制が認められている。アムロジピンではヒト母乳中へ移行することが報告されている。¹⁾]

【主要文献】

- 1) 阿部真也ほか：周産期医学．2017；47：1353-1355
 2) 齊藤大祐ほか：鹿児島産科婦人科学会雑誌．2021；29：49-54
 以下文献番号繰り下げ

【2】「禁忌」の項の記載を一部改訂し、以下のように改めました。

下線____部：追記箇所（自主改訂）、下線____部：削除箇所

改訂後	改訂前
【禁忌】（次の患者には投与しないこと） (1) 省略、変更なし (2) 妊婦又は妊娠している可能性のある女性（「6. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与」の項参照） (3) 省略、変更なし	【禁忌】（次の患者には投与しないこと） (1) 省略 (2) 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人（「6. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与」の項参照） (3) 省略

【3】「副作用」の「重大な副作用」の項の記載を一部改訂し、以下のように改めました。

下線____部：追記箇所（自主改訂）、下線____部：削除箇所

改訂後	改訂前
4. 副作用 (1) 重大な副作用（頻度不明） 1)～6) 省略、変更なし 7) 横紋筋融解症 筋肉痛、脱力感、CK（CPK）上昇、血中及び尿中ミオグロビン上昇を特徴とする横紋筋融解症があらわれることがあるので、観察を十分に行い、このような場合には直ちに投与を中止し、適切な処置を行うこと。また、横紋筋融解症による急性腎障害の発症に注意すること。 8)～9) 省略、変更なし	4. 副作用 (1) 重大な副作用（頻度不明） 1)～6) 省略 7) 横紋筋融解症 筋肉痛、脱力感、CK（CPK）上昇、血中及び尿中ミオグロビン上昇を特徴とする横紋筋融解症があらわれることがあるので、観察を十分に行い、このような場合には直ちに投与を中止し、適切な処置を行うこと。また、横紋筋融解症による急性腎不全の発症に注意すること。 8)～9) 省略

< 2. 改訂理由 >

【1】 6. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与 (1) (2) [薬生安通知] 及び [自主改訂]

レニン-アンジオテンシン系阻害作用を有する医薬品については、従来より妊婦に投与しないよう注意喚起され、2014 年 9 月には「PMDA からの医薬品適正使用のお願い」No.10 が発出されています。しかし、それ以降も妊娠中にこれらの医薬品を継続し、胎児等への影響が疑われる症例が報告されており、その中には妊娠が把握されずこれらの医薬品が使用された例も認められました。これを受け、妊娠する可能性のある女性への投与にあたっては、必要性を慎重に検討するよう注意喚起を行うため、レニン-アンジオテンシン系阻害作用を有する医薬品の胎児等への影響と注意事項について、追記及び変更しました。

なお、今回の改訂に伴い、「PMDA からの医薬品適正使用のお願い」No.10 が更新されましたのでご案内申し上げます。

「PMDA からの医薬品適正使用のお願い」No.10 (PDF)

[レニン-アンジオテンシン系阻害作用を有する医薬品 (ACE 阻害薬、ARB 等) の胎児等への影響と注意事項について]

<https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/calling-attention/properly-use-alert/0002.html>



【1】 6. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与 (1) (3) 及び 【2】 禁忌 (2) [自主改訂]

「婦人」を「女性」に記載整備しました。

【3】 4. 副作用 (1) 重大な副作用 7) [自主改訂]

厚生労働省発行「医薬品・医療機器等安全性情報 No.341」(2017 年 3 月)の参考資料『「急性腎障害」の用語について』に基づき、「急性腎不全」を「急性腎障害」に記載整備しました。

以上

●今回の改訂内容につきましては医薬品安全対策情報〔【1】の(1)(2)は DSU No.317 (2023 年 5 月)、【3】は DSU No.260 (2017 年 6 月)〕をご参照ください。

●最新の電子添文は独立行政法人医薬品医療機器総合機構ホームページの「医薬品に関する情報 (<https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html>)」及び弊社ホームページの「医療関係者向けサイト (<https://www.npi-inc.co.jp/medical/products>)」に掲載されます。

また、添付文書閲覧アプリ「添文ナビ[®]」で下記 GS1 コードを読み取ることによりご覧いただくこともできます。

